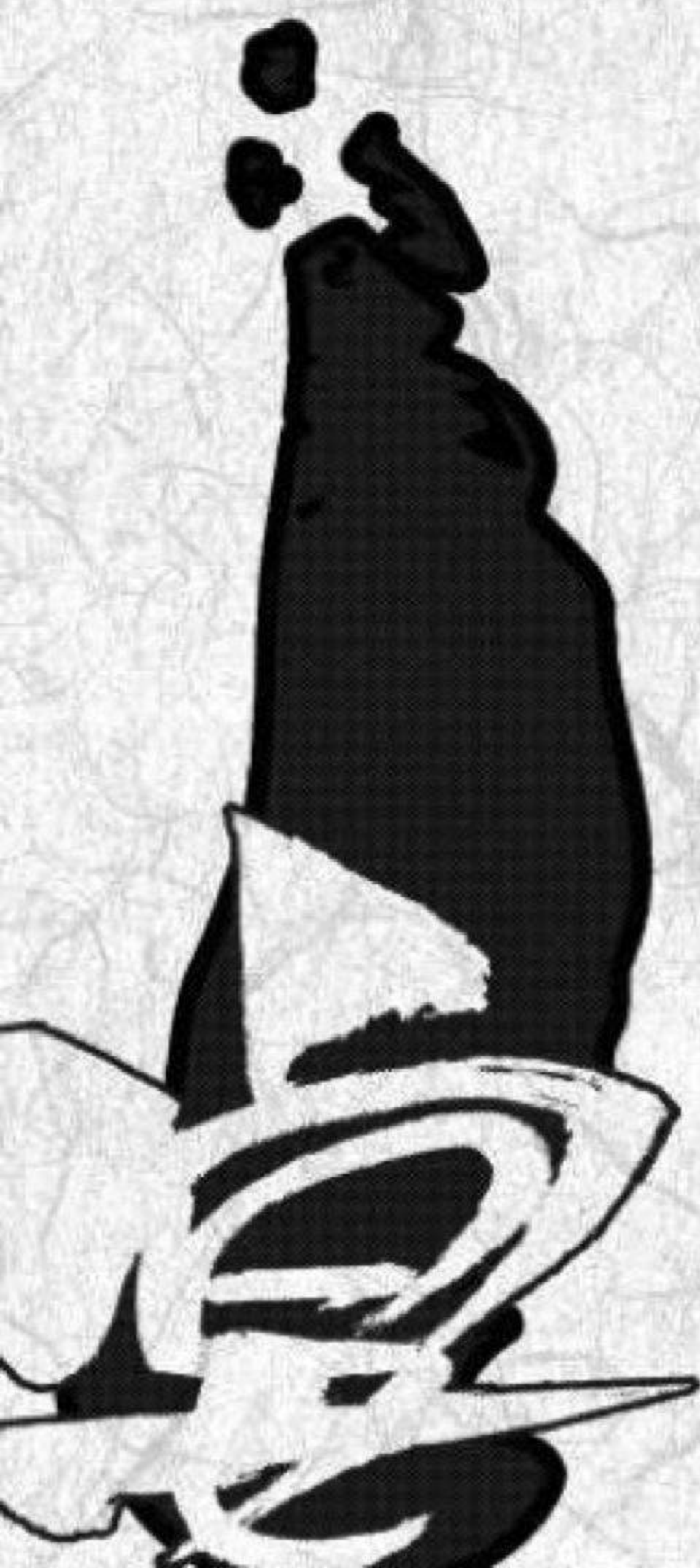


深緑の宴

SHINRYOKU no UTAGE







その可憐な少女の顔には
僕の心に跡を残すほどの
充分過ぎたてし

深緑の宴

SHENRYOKU NO UTAGE



ゆゆゆ

お母さん…
どうも

ははは…
いただきます

ほら
ぼーちゃんも



あ…うむ

こんな若々しい姿のまま
酌をしてやってるんだ
私が歳って事に
感謝するんだな



う…うん

…冗談だよそんな
しみったれた
顔をするな



あ…



やー…それを
言ったらばあちゃん
にお酌されるっ
てのもなかなか…

いやまさか
孫にお酌される
日が来るとはなあ

別段悪い事だとは思っていないんだ

普通では体験しきれない
沢山の事を見聞きできるし

この姿であるからこそしんらの傍に居られるしな

…まだ私がお前に見えていない頃はこっそりかつじっくり観察できたし

え…何それ

お前が笑い聲を食べて一人で一日中笑い転げてた所とか

うえ…?

お前の親父秘蔵の春面を見つけた時の事と

わー!!
わー!!

まあ…

確かに最初は多少なりとも悩んだりしたものだ

今はこの姿で居られる事に感謝してるんだ

今こうしてしんらと一緒に刻を過ごしている事が何よりも幸せなんだよ

ばあちゃん…



できればそういう話はシラフでは…

あつ
そのっ…
ほら！こういう話は酒の席でするものだろう！？

いやまだ飲んでないし



酒に飲まれる前に雰囲気飲まれちゃねえ

ええい！貴様少しは年上を立てる事を知れっ

…でも安心したよ

ん？



この力の所為でいろんな人を巻き込んだじゃったから…ばあちゃんは特にね

だからそのばあちゃんにこうやって笑っていてももらえるのは凄く嬉しいんだよ

しんら…

そういう台詞はシラフでははけないんじゃないか？

ぼっ…ばーちゃんがそういう流れにしたんだろ！

とっ…
ともかく！

飲むよ！
ほら！



あの時――

初めてばあちゃん
……というより

見たこともない
可憐な少女

「麻子」を
見た時からだ

この森の
香い緑に浮かぶ
鮮やかな赤と
絹のような白は

物心ついた時から
屋敷から出る事無く
育った僕の心に跡を
残すのに充分過ぎて

ふっ……う

はっ……

その姿が頭に
浮かぶ度に

ふっ…

ん しゅっ

頭が、体が
熱くなって

んんっ

それを抑えたい
一心で

はっ…

今まで数える程しか
してこなかった
行為をし続けた

うんっ

でも—

この行為だけでは
満たされない
本能だけは
積もっていったんだ

しんら…



おわっ!?

しんら!!

しんら



うーん……

どうした?
考え事か?

女性と一緒に
居ながら上の空とは
たいした大物っぶり
だなあええ?

何か悩みが
あるなら
言ってみな

ごめん



ええと……

何を考えて
たんだっけ



……ああ
そうだ——



なんかぼーっと
して考えが
まとまらないな

熱っぽくて
まだ全然飲んで
ないのに酔ってる
みたいなの……





お前が初めて
自慰を知った時も
見ていたし

いつも覗いていたと
言っただろう？

しんらの
何もかもを
見守って
いたんだよ

ここ数日は
睨を見つけては
前に落ちて逸物を
必死に擦っていたな



こうして触れる
事ができるように
受肉したせいかな

お前の目が虚ろに
なってだらしなく
口を空けて射撃
する様を見て
私も興奮したよ

はは



この辺り一帯
光酒でいっぱい
なったからな

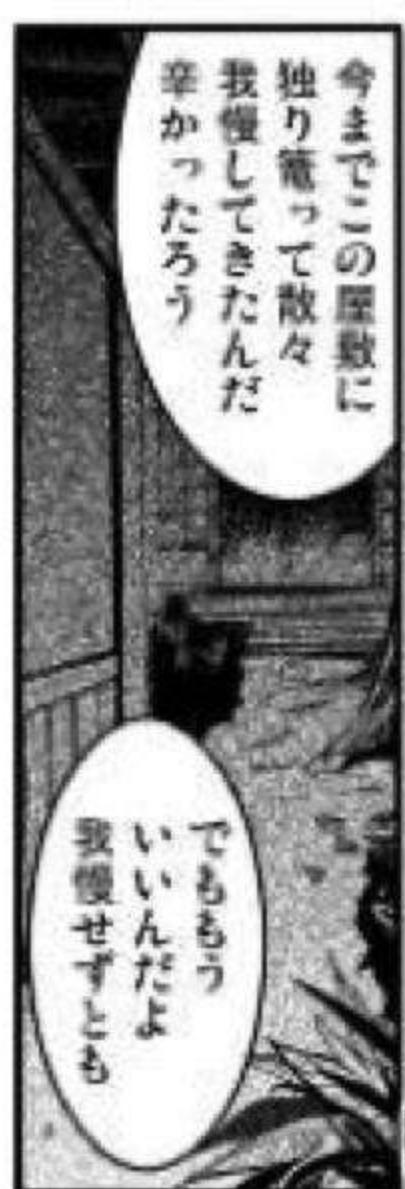
光酒は命そのもの
草木は生い茂り
動物も活気付く

——当然蟲もだ



ああああー

なに眠ずかし
がることはない





柔らかくて...
甘い



とろけるような
果実酒の香り



光酒や酒のため
だけじゃない
香が性器が
触れた所
全てが燃える
ように熱くなる





そう...こんなになるくらいに

光酒の精気にあてられてるんだろうな
昂ぶってどうしようもないんだ

わ...

ひび



よーく 見てみな

くは

そら しんら



ここに お前のいきり立ったの逸物を挿れてたの

気の済むまで 射精するんだろ？ 興奮するだろう？

しんら



うあっ!



ホラ私の割れ目を
押し分けて入って
いくぞ

ぬぐぬぐ



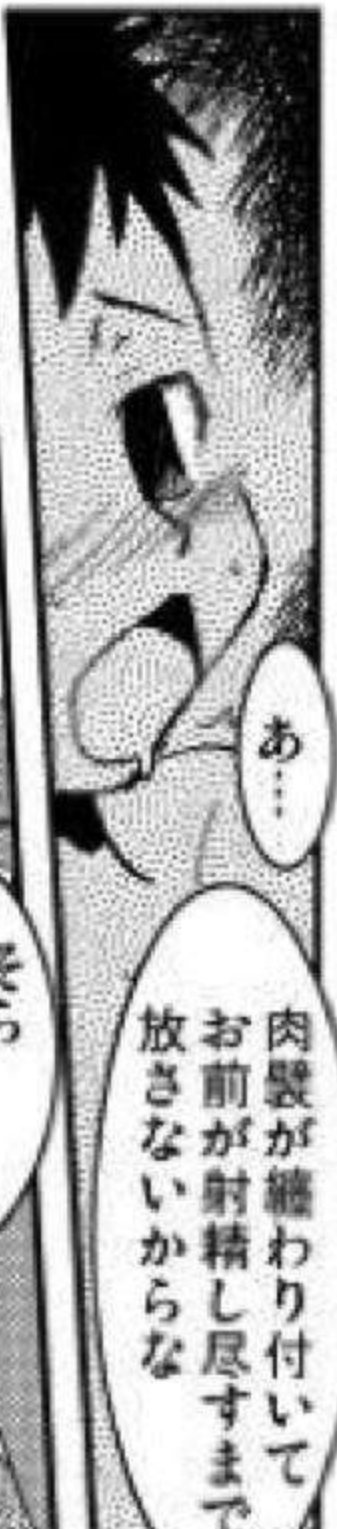
んっ…あ
よく目を開いて
見てるんだぞ

あ…

あ…



そら
しっかり…
味わえっ



あ…

肉壁が纏わり付いて
お前が射精し尽すまで
放さないからな



あ…は
はいっ…たあ

どうっ…だ
初めての女の膣は
男根から精液を
絞り取る
ための場所だ





あっ！
ご、ごめん

だ、大丈夫だ
これくらいっ

っっ！



これくらいっの方が…
締まって気持ち
いいだろう？

そろっまだ
これからだ

もっと激しく
いくぞっ

キヤウ
ウ



あんっ

あっ

はうっ



私っ…

私もっ…
何か来るっ

すっ

すっ



はっ

あっ

スッ

びくびくして
きたあっ

射精っ…射精するん
だねっ?しんらっ



あっ…あ!

いいよっ
このままっ

すっ

すっ





腰が抜けたっ

うえ!?



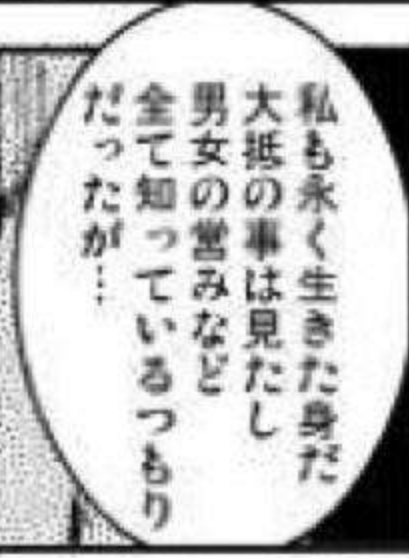
…ばーちゃん?

こ…

こ…?



「感覚」は見て知る事はできないものなのだ



私も永く生きた身だ
大抵の事は見たし
男女の営みなど
全て知っているつもり
だったが…



なんか頭も体も
ふわふわして
もう何がなんだか



そんな当然の事も
忘れていたなんてな…
今更ながら情けない

これではしんらの
保護者だなどと
言えたものじゃない

ばあちゃん…

なんか今の
ばーちゃん
凄く可愛い…

はあ!?

いや…なんか前から
思ってたんだけど
「はあちゃん」って
違ってたよな

もっとなんか…

そう…

廉子…

とか…

あっ!

いやっごめん
それは流石に
ダメ…だよな

えっと
その
でも…



確かに廉…いや
ばあちゃんは
ずっと僕の事を
見守ってくれてたし

そのために人の姿を
捨ててまで傍に居て
くれて凄く感謝してる

でも

僕のこの力の目付けの
為だけで何十年も
過ごしてきたって
いうんじゃないか
過ぎると思うんだ



だからばあちゃんには
僕の保護者として
じゃなくてばあちゃん
自身のためにここに
在って欲しいから

「ばあちゃん」じゃなくて
「廉子」って呼びたいなど
思ったんだ



まああと…
肉親というか祖母を
好きになっちゃうって
なんかばつが悪い
というかなんというか

ぶ



はははは！
確かにそうだな！


息子ならともかく
孫との近親相姦など
長年生きてきても
聞いた事がない！

近っ!?




光酒の精気にあたりたり
何十年ぶりに急に
洪水のような感覚の
波がきたせいかな

頭が働いてなかった
ようだすまん



これからは「廉子」と
呼んでくれて
構わないよ

しんらの口から
その響きを聞くと
とても安心する



じゃあこれからは
ばあちゃんいや廉子の
ために生きなきゃね

はは
そうだな




とりあえず私が見聞き
した事全て体験するまでは
付き合ってもらうからな
よろしく頼むぞ

…覚悟しておきな

—終—





奥付

06.9.26

sunshine creation 33

深緑の宴

発行

MASULAO MAXIMUM

風川なぎ

<http://masulao.aquasky.jp>

masulao@img.jp

メール、WEB拍手にて
感想、叱咤激励受付中。
罵詈雑言は無い方向でw



MASU
MASU

THE BOY OF THE YEAR